

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2	学科	商業科		類型				
教科	国語	科目	論理国語			単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	「新編論理国語」 （東京書籍）			補助教材等	「新編論理国語 学習課題ノート」 （東京書籍）				
科目の目標	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								
観点別評価	観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	○			◎		○		
	評価 規 準	・実社会で求められる漢字や語彙などの知識や技能を適切に身に付けている。 ・論理的な文章を読み書きするための表現技法や慣用表現などを適切に理解できている。			・言葉を適切に用いて論理的、批判的に考え、創造的に考えて表現することができている。 ・他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。		・言葉がもつ価値を認識し、生涯にわたって読書に親しもうとする態度がある。 ・我が国の言語文化の担い手としての自覚があり、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度をもっている。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）					観点別評価			
第1学期 中間 考査まで	1. 読む「対話とは何か」 ○ 論理の力① つなげる力 「逆説」と「根拠」の接続表現を抜き出す … 対話についての筆者の考えを捉え、日常のコミュニケーションの在り方を振り返る。	知識 技能			思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	観 点	評価の手段	
							定期考査等		
							課題やレポート 振り返りシート等		
							定期考査等		
第1学期 期末 考査まで	2. 読む「少女たちの『ひろしま』」 ○ 論理の力③ 要約する力 作者の認識の変化を捉える … 戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし、時代や社会について考える態度を養う。 3. 読む「ラップトップを抱えた『石器人』」 ○ 論理の力② 論証する力 作者の論拠をまとめる … 事実と主張の関係に注意して文章を読み、人間の脳働きについて考える。	知識・ 技能			思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	観 点	評価の手段	
							定期考査等		
							課題やレポート 振り返りシート等		
							定期考査等		
第1学期	観点別 評価	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		○			◎		○		
		・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。			・「読むこと」において、文章の論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から理解できている。		・積極的に筆者が述べる「おしゃべり」と「対話」の違いを捉え、学習課題に沿って自分の生活におけるコミュニケーションの在り方を振り返ってまとめ、自らの考えを深めようとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	4. 読む「思考の肺活量」 ○ 論理の力① つなげる力 「例示」の役割をしている段落を見つける … 比喻表現に注意して内容を読み取り、思考のあるべき姿について理解を深める。 ○ 書く①「資料を整理し、テーマを吟味しよう」 … 資料を集めてさまざまな観点から整理し、テーマを吟味する。			知識 技能	定期考查等
					課題やレポート
					振り返りシート等
				思考 判断 表現	定期考查等
					授業での活動
					課題やレポート
					振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	振り返りシート等
					課題やレポート
					授業での活動
第2学期 期末 考查まで	5. 「弱肉強食は自然の摂理か」 ○ 論理の力③ 要約する力 文章の中心となる「問い」と「主張」をまとめる ○ 言語活動 グラフを読み取る … 筆者の提示している問いや根拠に注意して読み、文章の論理展開を的確に捉える。 ○ 書く②「仮説を立てて検証しよう」 … 仮説を立てて検証し、検証過程を文章にまとめる。			知識 ・ 技能	定期考查等
					課題やレポート
					振り返りシート等
				思考 判断 表現	定期考查等
					授業での活動
					課題やレポート
					振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	振り返りシート等
					課題やレポート
					授業での活動
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・実生活に必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。			
		・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。			
学年末 考查まで	6. 「楽しく働くこと、楽しく働くこと」 ○ 論理の力④ 質問する力 文中の「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」を意識しながら質問を考える … 楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解する。			知識 技能	定期考查等
					課題やレポート
					振り返りシート等
				思考 判断 表現	定期考查等
					授業での活動
					課題やレポート
					振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	振り返りシート等
					課題やレポート
					授業での活動
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・豊かな実生活に必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。			
		・「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。			
		・「楽しく働くこと」について、文章の筆者の立場に基づく考えを、学習課題に沿って進んで理解し、「働くよろこび」について自分の考えをまとめようとしている。			

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型				
教科	公民	科目	公共		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書		「詳述公共」(実教出版)		補助教材等	フォーラム公共 (東京法令出版) 詳述公共演習ノート (実教出版)			
科目の目標		現代の諸課題について考察する手がかりとなる概念や理論を理解するとともに、必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身につけさせ、現実社会の諸課題の解決に向けて、その判断の手がかりとなる考え方や基本的原理を活用して、多面的に考察し公正に判断する力や、合意形成を視野に構想したことを議論する力を養うことで、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めさせる。						
観点別評価		観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		重点	◎	○	○			
		評価 規 準	・現代の諸課題について考察する手がかりとなる概念や理論を理解している。 ・必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身につけている。	・現実社会の諸課題の解決に向けて、その判断の手がかりとなる考え方や基本的原理を活用して、多面的に考察し公正に判断する力や、合意形成を視野に構想したことを議論する力を身につけている。	・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。			
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)				観点別評価			
				観 点	評価の手段			
第 1 学期 中間 考 査 ま で	第 1 編 公共の扉 1 青年期と自己形成 ・青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティの確立の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について考察する。 2 世界の思想 ・伝統や文化、先人の取組や知恵に触れることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解する。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料からよりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付け、多面的・多角的に考察し、表現する。			知識 技能	定期考査等			
					課題やレポート 授業での活動			
				思考 判断 表現	定期考査等			
					課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等			
第 1 学期 期 末 考 査 ま で	3 民主社会の倫理 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解し、実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。 4 民主国家の基本原則 ・法の支配や近代立憲主義の意義について、歴史的背景もふまえながら理解する。 ・公共的な空間における基本的原理の一つである人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について考察し、理解する。			知識 ・ 技能	定期考査等			
					課題やレポート 授業での活動			
				思考 判断 表現	定期考査等			
					課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等			
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		◎		○		○		
	評価 規 準	・青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティについて理解している。 ・世界の思想や民主社会の倫理、民主国家の原理について理解している。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料など、必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。		・青年期に生きる自己形成の課題について考えている。 ・人間としての在り方生き方について考えている。 ・個人と社会との関わりについて多面的に考察し表現している。		・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第 2 学期 中間 考查まで	第 2 編 よりよい社会の形成に参加する私たち 1 日本国憲法の成立 ・日本国憲法の基本原理を理解し、国際平和と人権の尊重について、考察する。 2 日本の政治機構と政治 ・わが国の三権分立と国会の地位、国会の役割と権限国会の構成と運営について、実際の政治事象とも関連させながら理解する。 ・政治のしくみと制度を前提として展開される実際の政治の運営の現状と課題について考察する。 ・地方自治の原則としくみ、地方財政のしくみと課題住民参加の形態と意義について理解するとともに、地方自治の課題について考察する。	知識 技能		定期考查等	課題やレポート 授業での活動
		思考 判断 表現		定期考查等	課題やレポート 授業での活動
					振り返りシート等
		主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート	授業での活動
					振り返りシート等
第 2 学期 期末 考查まで	3 現代の経済社会 ・職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の課題を考察する。 4 経済活動と国民福祉 ・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。	知識 ・ 技能		定期考查等	課題やレポート 授業での活動
		思考 判断 表現		定期考查等	課題やレポート 授業での活動
					振り返りシート等
		主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート	授業での活動
					振り返りシート等
第 2 学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・わが国の憲法や政治機構について理解している。 ・実際の政治事象や現代の経済社会に関わる諸資料など、必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・人権や実際の政治事象についての課題について多面的に考察し表現している。 ・現代の経済社会についての課題について多面的に考察し表現している。	・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。	
学年 末 考查まで	5 国際政治の現状と課題 ・国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象と関連させながら理解する。 6 国際経済の現状と課題 ・自由貿易と保護貿易、自由貿易の推進に向けた体制国際収支統計の意味について、実際の経済的事象とも関連させながら理解する。 ・為替のしくみと外国為替市場、国際通貨制度とその変化、国際金融の動向について、実際の経済的事象とも関連させながら理解する。 ・現代の諸課題について、探究的な課題を設定し課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり考察したりする。	知識 技能		定期考查等	課題やレポート 授業での活動
		思考 判断 表現		定期考查等	課題やレポート 授業での活動
					振り返りシート等
		主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート	授業での活動
					振り返りシート等
第 3 学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・国際法や国際経済の仕組みなどについて理解している。 ・現代の国際社会に関わる諸資料など、必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・現代の国際社会における課題について多面的に考察し表現している。 ・現代の国際経済社会についての課題について多面的に考察し表現している。	・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・国際社会に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型						
教科	数学	科目	数学 A			単位	2	必修 選択	必修	
使用教科書		「最新 数学 A」(数研出版)		補助教材等	パ・ラレルノート数学 A (数研出版)					
科目の目標		図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培うとともに、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。								
観点別評価		観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
		重点	◎		○		○			
		評価規準	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。			
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)					観点別評価				
							観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考査まで	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・集合の要素の個数 ・場合の数 ・順列 ・組合せ					知識 技能	定期考査等			
							課題やレポート			
						思考 判断 表現	定期考査等			
							課題やレポート			
主体的に 学習に 取り組む 態度	課題やレポート									
	授業での活動									
第 1 学期 期末 考査まで	第2節 確率 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・事象と確率 ・確率の基本性質 ・独立な試行と確率 ・条件付き確率 ・期待値					知識 ・ 技能	定期考査等			
							課題やレポート			
						思考 判断 表現	定期考査等			
							課題やレポート			
主体的に 学習に 取り組む 態度	課題やレポート									
	授業での活動									
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
		◎		○		○				
		評価規準	・共通部分、和集合、補集合を求めることができる。 ・和集合や補集合の要素の個数の公式を用いることができる。 ・順列や組合せの用語、公式を理解し、利用できる。 ・確率の定義に基づき、事象の確率を求めることができる。		・場合の数を数える適切な方針を考察することができる。 ・既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。 ・反復試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 ・条件付き確率を、公式を用いて求めることができる。		・順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもとうとしている。 ・組合せの考え方を利用して、図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもとうとしている。 ・和事象、積事象、排反、空事象、確率の基本性質を集合と関連づけて考察しようとしている。 ・くじ引きの確率が、引く順番に関係なく等しくなることに興味をもとうとしている。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）		観点別評価	
			観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・三角形の辺の比 ・三角形の外心・内心・重心 ・チェバの定理・メネラウスの定理 ・円に内接する四角形 ・円と直線 ・2つの円 ・作図	知識 技能		定期考查等
				課題やレポート
		思考 判断 表現		定期考查等
				課題やレポート
		主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート
				授業での活動
第2学期 期末 考查まで	第2節 空間図形 空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・直線と平面 ・空間図形と多面体	知識 ・ 技能		定期考查等
				課題やレポート
		思考 判断 表現		定期考查等
				課題やレポート
		主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート
				授業での活動
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○
	評価 規 準	・三角形の内角・外角の二等分線と比の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。 ・外心・内心・重心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。 ・チェバの定理、メネラウスの定理、方べきの定理を用いて、線分比を求めることができる。 ・円周角の定理、接線と弦の作る角の定理を用いて、角の大きさを求めることができる。	・証明する際に、適当な補助線を引いて考察することができる。 ・図形の性質を証明するのに、間接的な証明法である同一法を適用することができる。 ・作図の各過程において、平面図形のどの性質を用いているかを考察できる。	・三角形の3辺の垂直二等分線が1点で交わることの証明方法に関心をもとうとしている。 ・三角形の面積と線分の比の性質の証明方法に関心をもとうとしている。 ・2つの円の位置関係の判定条件として、中心間の距離と半径の関係について、積極的に考察しようとしている。 ・空間における図形の位置関係について考えてみようとしている。
学年 末 考查まで	第3章 数学と人間の活動 さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を、数学を用いて考察できるような力を培う。 ・約数と倍数 ・素数と素因数分解 ・最大公約数・最小公倍数 ・整数の割り算 ・ユークリッドの互除法 ・1次不定方程式 ・記数法 ・座標の考え方 ・ゲーム・パズルの中の数学	知識 技能		定期考查等
				課題やレポート
		思考 判断 表現		定期考查等
				課題やレポート
		主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート
				授業での活動
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○
	評価 規 準	・さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解している。	・現実の事象を、数学を用いて考察できるような力を身に付けている。	・数学史に興味・関心をもとうとしている。

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型				
教科	理科	科目	化学基礎		単位	2	必修 選択	選択
使用教科書	「高等学校 新化学基礎」 (第一学習社)		補助教材等	ネオパルノート 化学基礎 (第一学習社)				
科目の目標	物質とその変化に関わり，理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して，物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	○		◎		○		
	評価規準	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、化学に関する事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。		自然界や産業界にある事物・現象の中に問題を見出し、化学的に探究する過程を通して、事象を科学的・論理的に考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。		自然の原理・法則や科学技術と私たちの生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる化学に対して探究しようとしている。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
					観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考查まで	1 章 物質の構成 1 節 物質の探究 ・物質を成分によって「混合物、純物質、化合物、単体」に分類できることを知り、各物質の特徴を理解する。 ・身近な物質の三態変化と、粒子の熱運動と温度との関係に関心を持ち、それらを意欲的に探究しようとする。 ・物質の物理的、化学的性質を調べることにより、物質が数種類に分類できることを実験的・論理的に考え、表現することができる。 ・粒子の熱運動と粒子間にはたらく力との関係を理解する。				知識 技能	定期考查等		
						課題プリント		
						授業での活動		
					思考 判断 表現	授業での活動		
						定期考查等		
						課題プリント		
第 1 学期 期 末 考 査 ま で	2 節 物質の構成粒子 ・原子の大きさや構造について理解する。原子構造の簡単なモデルを描く技能を習得し、的確に表現する。 ・イオンの生成を電子配置と関連づけて考える。 ・電子の配列と性質との関わりについて理解する。 2 章 物質と化学結合 1 節 イオン結合 ・陽イオンと陰イオン間の静電的引力によりイオン結合が形成されることを理解する。 ・水溶液中や熔融した状態のイオンの挙動をイメージし、表現することができる。 ・イオン結合でできた物質の性質について探究する。				知識・ 技能	定期考查等		
						課題プリント		
						授業での活動		
					思考 判断 表現	授業での活動		
						定期考查等		
						課題プリント		
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		◎		○		○		
		評価規準		・粒子の熱運動と粒子間にはたらく力との関係を理解している。 ・元素の性質が電子配置と関係しており、現在の周期表がつけられていることを理解することができる。		・物質の物理的、化学的性質を調べることにより、物質が数種類に分類できることを実験的・論理的に考え、表現することができる。 ・水溶液中や熔融した状態のイオンの挙動をイメージし、表現することができる。		・物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探究しようとしている。 ・元素の性質に興味を持ち、元素の性質が周期的に変わること

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 期末 考 査 ま で	2節 共有結合と分子間力 ・分子中の原子の結合および分子の構造を表す方法を理解する。 ・電気陰性度を理解し、分子の形と合わせて極性について考える。 3節 金属結合 ・金属結合が自由電子の介在した結合であることを理解し、電気伝導性や展性、延性などの金属の性質と関連付けて理解する。 4節 化学結合と物質 ・身近な物質を化学結合の種類と結び付けて考える。			知識 技能	定期考査等
					課題プリント
					授業での活動
				思考 判断 表現	授業での活動
					定期考査等
					課題プリント
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動
					課題プリント
第2学期 期 末 考 査 ま で	3章 物質の変化 1節 物質と化学反応式 ・原子量・分子量・式量と物質の関係を論理的・分析的・包括的に理解できているとともに、物質を用いた基本的な計算をする。 ・モル濃度が、溶液の体積と溶質の物質の関係を表していることを理解する。 2節 酸と塩基 ・酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸・塩基の反応を捉える。 ・酸・塩基の価数・強弱の関係を理解している。性、塩基性の程度とpHの関係を理解する。			知識 ・ 技能	定期考査等
					課題プリント
					授業での活動
				思考 判断 表現	授業での活動
					定期考査等
					課題プリント
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動
					課題プリント
第2学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		◎	○	○	
	評価 規 準	・共有結合を電子配置と関連づけて理解している。 ・電気伝導性や展性、延性などの金属の性質と関連付けて理解している。 ・原子量・分子量・式量と物質の関係を論理的・分析的・包括的に理解している。	・電気陰性度を理解し、分子の形と合わせて極性について考えることができる。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを表現することができる。 ・さまざまな酸・塩基の強弱について考察することができる。	・分子からなる物質や、共通結合の結晶の性質について探究しようとしている。 ・金属に共通する性質について、探究しようとしている。 ・身近な現象と酸化還元反応を関連付けて、探究しようとしている。	
学年 末 考 査 ま で	3節 酸化還元反応 ・酸化・還元反応の定義を理解し、酸化と還元が同時に起こることを理解している。酸化数の定義を理解する。 ・金属のイオン化傾向を、酸化還元反応と関連付けて理解する。 ・酸化数の定義を理解し、これらの定義を適用できる反応を見出す。 ・酸化還元反応に関心を持ち、電子の授受という観点から化学反応をとらえ、意欲的に探究する。			知識 技能	定期考査等
					課題プリント
					授業での活動
				思考 判断 表現	授業での活動
					定期考査等
					課題プリント
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動
					課題プリント
第3学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		○	◎	○	
	評価 規 準	・酸化数の定義を理解している。 ・イオン反応式から反応全体の化学反応式を導くことができる。 ・酸化還元反応の量的関係を理解している。	・酸化数の定義を理解し、これらの定義を適用できる反応を見出すことができる。	・身近な現象と酸化還元反応を関連付けて、探究しようとしている。 ・酸化還元反応に関心を持ち、電子の授受という観点から化学反応をとらえ、意欲的に探究しようとする。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型					
教科	理科	科目	生物基礎			単位	2	必修 選択	選択
使用教科書		「新編 生物基礎」 (東京書籍)		補助教材等		ニューサポート新編生物基礎 (東京書籍)			
科目の目標		日常生活や社会との関連を図りながら自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と自然観を身につけるとともに、自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解する。							
観点別評価		観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		重点	○		◎		○		
		評価 規 準	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。		・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身につける。		・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。 ・生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）					観点別評価			
第 1 学期 中間 考 査 ま で		第 1 編 生物の特徴 第 1 章 生物の多様性と共通性 ・生物を比較し、生物は多様ながら共通性を持ち、それは起源の共有に由来することを理解させる。 ・生物に共通する性質は細胞であり、原核細胞と真核細胞があることを内部構造と共に理解させる。 第 2 章 生物とエネルギー ・生命活動に必要なエネルギーと代謝について呼吸と光合成の概要から理解させ、それらがATPの合成反応であると理解させる。			知識 技能	課題やレポート			
						授業での活動			
						振り返りシート等			
					思考 判断 表現	定期考査等			
						課題やレポート			
						授業での活動			
主体的に 学習に 組 む 態 度	振り返りシート等								
	定期考査等								
	定期考査等								
第 1 学期 期 末 考 査 ま で		第 2 編 遺伝子とその働き 第 1 章 遺伝情報とDNA ・DNAの構造や性質、その関係性、遺伝情報が伝えられる仕組みを理解させる。 第 2 章 遺伝情報とタンパク質の合成 ・生命現象とタンパク質の関係を通して、タンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成される仕組みと、遺伝子は常に細胞内で発現しているわけではないことを理解させる。			知識 ・ 技能	課題やレポート			
						授業での活動			
						振り返りシート等			
					思考 判断 表現	定期考査等			
						課題やレポート			
						授業での活動			
主体的に 学習に 組 む 態 度	振り返りシート等								
	定期考査等								
	定期考査等								
第 1 学期		観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
			◎		○		○		
		評価 規 準	・真核細胞の構造について理解している。 ・ATPの構造やリン酸どうしの結合にエネルギーが蓄えられていることを理解している。 ・親の形質が子に引き継がれる遺伝現象はDNAによって担われていることを理解している。		・観察結果を比較し、生物のもつ共通性について説明できる。 ・ここまで学習した用語を使って、生物の多様性と共通性を説明できる。 ・酵素の基質特異性について調べ、そのしくみを説明できる。		・私たちの体で働く酵素について具体例を調べようとしている。 ・食品の栄養成分表示を見て、身の回りでタンパク質を多く含む食品を調べようとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第 2 学期 中間 考査まで	第 3 編 ヒトの体の調節 第 1 章 ヒトの体を調節するしくみ ・生物は恒常性により体内環境が保たれ、それは神経系と内分泌系により調節されることを理解させる。 ・体内環境がホルモンと自律神経の作用により調節される仕組みと、それが調節ができなくなったときに発症する疾患について理解する。	知識 技能			課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
					定期考査等
		思考 判断 表現			課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
					定期考査等
		主体的に 学習に取り 組む態度			課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
第 2 学期 期末 考査まで	第 2 章 免疫のはたらき ・免疫の全体的な仕組み、および体液性免疫や細胞性免疫について理解させる。 ・免疫のしくみを利用した病気の予防や、免疫に関わる疾患について理解させる。 第 4 編 生物の多様性と生態系 第 1 章 植生と遷移 ・気温や降水量の違いから多くのバイオームが成立し、遷移の結果、植生が変化することを理解させる。 ・生物は環境から影響を受けつつ存在し、生態系には多様な生物(植生)が存在すると理解させる。 ・植生はその周囲の環境から影響を受けて変化(遷移)していくことを理解させる。	知識 ・ 技能			課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
					定期考査等
		思考 判断 表現			課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
					定期考査等
		主体的に 学習に取り 組む態度			課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
第 2 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		◎	○	○	
	評価 規 準	・ヒトの体内環境を一定に保とうとする調節のしくみを理解している。 ・体内環境の維持と自律神経系による調節を関連づけて理解している。	・体液の割合について調べ、人体の構造や各器官の役割について説明できる。 ・乳幼児期に接種するワクチンと感染症について調べ、説明できる。	・脳死をめぐる見解について、さまざまな立場の人の意見を調べ、自分の考えを深めようとしている。 ・植生について理解した内容をもとに、樹木のある場所とない場所における環境の違いを見いだそうとしている。	
学年 末 考査まで	第 2 章 生態系と生物の多様性 ・生態系における生物の種多様性と生物間の関係性を物質とエネルギーの移動と関連付けて理解させる。 ・生態系のバランスと、人為的攪乱によりそのバランスが崩れる場合があることを理解させ、生態系保全の重要性を認識し、自然環境の保全に寄与する態度を育てる。	知識 技能			課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
					定期考査等
		思考 判断 表現			課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
					定期考査等
		主体的に 学習に取り 組む態度			課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
第 3 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		○	◎	○	
	評価 規 準	・ピットフォールトラップから生態系における種の多様性を見いだして理解している。 ・生活排水の河川への流入の例から、人為的攪乱による生態系への影響を見いだして理解している。	・環境アセスメントの実施が始まった時期を調べ、環境問題への関心が高まった背景について説明できる。 ・例として琵琶湖における外来生物の影響をあげ、人間による生物の導入が生態系に与える影響を説明できる。	・生態系とその保全について整理し、その資料を読み取ろうとしている。 ・身近な食料品の生産や流通について、生態系保全の視点から捉え自らの意見を説明しようとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型				
教科	保健体育	科目	体育		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書		現代高等学校保健体育 (大修館書店)		補助教材等	アクティブスポーツ (大修館書店)			
科目の目標		運動の合理的、計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに挑戦するために、運動の多様性や体力の必要性を理解し、技能を身につけるようにするとともに、課題を発見し、合理的・計画的な解決のために他者に伝える力を養う。また、運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。						
観点別評価		観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		重点	◎	○	○			
		評価 規 準	・運動の多様性や体力の必要性を理解している。 ・必要となる技能を身につけている。	・課題を発見し、合理的・計画的な解決のために他者に伝える力を身につけている。	・運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を身につけている。 ・健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しもうとしている。			
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
				観 点	評価の手段			
第 1 学期 中間 考 査 ま で	体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方を理解し、実生活に役立てること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、体づくり運動に主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 陸上競技 ・技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特融の技能を身につけること、陸上競技に主体的に取り組むことを通して、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。				知識 技能	授業での活動		
						実技テスト等		
						課題やレポート		
						振り返りシート等		
					思考 判断 表現	授業での活動		
						実技テスト等		
主体的に 学習に取 組む態度	課題やレポート							
	振り返りシート等							
第 1 学期 期 末 考 査 ま で	陸上競技 ・技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特融の技能を身につけること、陸上競技に主体的に取り組むことを通して、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 ダンス ・ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、ダンスに主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 武道（柔道・剣道） ・技の名称や行い方などを理解し、攻防を展開すること、武道に主体的に取り組むことを通して伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 球技 ア、ゴール型：フットサル イ、ネット型：バレーボール ウ、ベースボール型：ソフトボール ・技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 体育理論 ①スポーツにおける技能と体力 技術と技能の違いについて説明できる。 ②スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程を理解し、各段階に応じた練習方法を考えることができるようにする。				知識 ・ 技能	授業での活動		
						実技テスト等		
						課題やレポート		
						振り返りシート等		
					思考 判断 表現	実技テスト等		
						課題やレポート		
						授業での活動		
						振り返りシート等		
					主体的に 学習に取 組む態度	実技テスト等		
						課題やレポート		
						授業での活動		
						振り返りシート等		
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
		◎	○	○				
	評価 規 準	・体力の構成要素、実生活への取り入れ方、役立て方を理解している。 ・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。	・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。	・各運動に主体的に取り組む、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第 2 学期 中間 考査まで	ダンス ・ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、ダンスに主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 武道（柔道・剣道） ・技の名称や行い方などを理解し、攻防を展開すること、武道に主体的に取り組むことを通して伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 球技 ア. ゴール型：フットサル、バスケットボール イ. ネット型：バレーボール、バドミントン ウ. ベースボール型：ソフトボール ・技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。	知識 技能			授業での活動
					実技テスト等
					課題やレポート
					振り返りシート等
			思考 判断 表現		授業での活動
					実技テスト等
					課題やレポート
					振り返りシート等
			主体的に 学習に取り 組む態度		実技テスト等
					課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
第 2 学期 期末 考査まで	ダンス ・ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、ダンスに主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 武道（柔道・剣道） ・技の名称や行い方などを理解し、攻防を展開すること、武道に主体的に取り組むことを通して伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 球技 ア. ゴール型：フットサル、バスケットボール イ. ネット型：バレーボール、卓球 ・技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 体育理論 ③技能の上達過程と練習 体の動きの仕組みについて説明できるようにする。 ④効果的な動きのメカニズム 体力と技能の関係を理解し、それらの高め方を説明できるようにする。	知識 ・ 技能			授業での活動
					実技テスト等
					課題やレポート
					振り返りシート等
			思考 判断 表現		作品や課題
					課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
			主体的に 学習に取り 組む態度		実技テスト等
					課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
第 2 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		◎	○	○	
	評価 規 準	・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。 ・試合や発表会の仕方を理解している。	・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。	・各運動に主体的に取り組む、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。	
学年 末 考査まで	球技 ア. ゴール型：ユニホック、バスケットボール イ. ネット型：バドミントン、卓球 ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 体育理論 ⑤体力トレーニング ・体力の構成要素について理解し、自己の課題にあったトレーニング方法、回数、強度を考えることができるようにする。 ⑥運動やスポーツでの安全の確保 ・運動によるけがや病気の予防方法を説明できるようにする。	知識 技能			授業での活動
					実技テスト等
					課題やレポート
					振り返りシート等
			思考 判断 表現		作品や課題
					課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
			主体的に 学習に取り 組む態度		実技テスト等
					課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
第 3 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		◎	○	○	
	評価 規 準	・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。 ・試合や発表会の仕方を理解している。 ・スポーツの効果的な学習の仕方を理解している。	・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる	・各運動に主体的に取り組む、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型				
教科	保健体育	科目	保健		単位	1	必修 選択	必修
使用教科書		現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)		補助教材等	現代高等保健ノート (大修館書店)			
科目の目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育成する。						
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価 規 準	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身につけている。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につけている。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
第 1 学期 中間 考 査 ま で	3. 生涯を通じる健康 ①ライフステージと健康 ②思春期と健康 ③性意識と性行動の選択 ④妊娠・出産と健康 ・思春期に起こる身体的変化や性意識、妊娠などについて理解させる。 ・生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理について理解させる。	知識 技能				観 点	観 点	
						定期考査等		
						授業での活動		
		思考 判断 表現				授業での活動		
						振り返りシート等		
		主体的に 学習に 取り組む 態度				授業での活動		
						課題やレポート		
						振り返りシート等		
		第 1 学期 期 末 考 査 ま で	⑤避妊法と人工妊娠中絶 ⑥結婚生活と健康 ⑦中高年期と健康 ・避妊法や人工妊娠中絶、加齢に伴う心理的な変化や身体的な変化について理解させる。 ・生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理について理解させる。	知識・ 技能				定期考査等
授業での活動								
思考 判断 表現				授業での活動				
				振り返りシート等				
主体的に 学習に 取り組む 態度				授業での活動				
				課題やレポート				
				振り返りシート等				
第 1 学期	観点別 評価			知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
		◎		○		○		
	評価 規 準	・妊娠や加齢に伴う身体的精神的变化などについて、理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。		・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。		・生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	⑧働くことと健康 ⑨労働災害と健康 ⑩健康的な職業生活 ・労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解させる。 4. 健康を支える環境づくり ①大気汚濁と健康 ②水質汚濁、土壌汚染と健康 ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があることを理解させる。	知識 技能		定期考查等	授業での活動
		思考 判断 表現		授業での活動	振り返りシート等
		主体的に 学習に取り 組む態度		授業での活動	課題やレポート 振り返りシート等
第2学期 期末 考查まで	③環境と健康に関わる対策 ④ごみの処理と上下水道の整備 ⑤食品の安全性 ⑥食品衛生にかかわる活動 ・環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準設定され、それに基づいて行われていることを理解させる。 ・食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解させる。	知識 ・ 技能		定期考查等	授業での活動
		思考 判断 表現		授業での活動	振り返りシート等
		主体的に 学習に取り 組む態度		授業での活動	課題やレポート 振り返りシート等
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・大気汚染や水質汚染、食品衛生などについて理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。	・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・健康を支える環境づくりに関する学習に主体的に取り組もうとしている。	
学年 末 考查まで	⑦保健サービスとその活用 ⑧医療サービスとその活用 ⑨医薬品の制度とその活用 ⑩さまざまな保健活動や社会的対策 ⑪健康に関する環境づくりと社会参加 ・生涯を通じて健康を保持増進するために、各医療機関や医薬品の活用方法について正しく理解させる。 ・我が国や世界で行われている健康課題に対する様々な保健活動や社会的対策、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりについて理解させる。	知識 技能		定期考查等	授業での活動
		思考 判断 表現		授業での活動	振り返りシート等
		主体的に 学習に取り 組む態度		授業での活動	課題やレポート 振り返りシート等
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・医療制度や医療機関などについて理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。	・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・健康を支える環境づくりに関する学習に主体的に取り組もうとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型					
教科	芸術	科目	音楽 I			単位	2	必修 選択	選択
使用教科書		MOUSA1（教育芸術社）		補助教材等	Music Note（啓隆社）				
科目の目標		曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせ、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもち、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組ませる。							
観点別評価		観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		重点	◎		○		○		
		評価 規 準	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。		音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。		主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価				
					観 点	評価の手段			
第 1 学期 中間 考査 まで	・歌唱 「翼をください」、「この道」 歌唱を通して、歌唱技能の基本を学び、音楽を味わって歌ったり聴いたりする。 ・楽典 「音名と音部記号」、「音符と休符」、「拍子」 基本的な音楽の理論を理解することで、歌唱曲や鑑賞曲にもより興味を示すことができる。ただ歌ったり聴いたりするだけではなく、基本からしっかりと理解し、それらを表現活動に生かす。				知識 技能	授業での活動			
						実技テスト等			
						小テスト			
					思考 判断 表現	授業での活動			
						実技テスト等			
						小テスト			
					主体的に 学習に取 組む態度	授業での活動			
						実技テスト等			
						課題やレポート			
第 1 学期 期末 考査 まで	・ソルフェージュ 「リズムを正確に読む」、「メロディーを階名で歌う」 楽典で学習した内容を生かして、リズムを読んだりメロディーを歌ったりする練習をする。 ・鑑賞 「ボレロ」 オーケストラの構造について深く理解し、それぞれの楽器の特徴や奏法に関心を持つ。また、同じメロディーを繰り返し演奏する楽曲に凝らされた工夫を自ら見つけ出し、音楽の面白さを感じる。。				知識・ 技能	授業での活動			
						小テスト			
						課題やレポート 振り返りシート等			
					思考 判断 表現	授業での活動			
						小テスト			
						課題やレポート 授業での活動			
					主体的に 学習に取 組む態度	授業での活動			
						課題やレポート 振り返りシート等			
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
		◎		○		○			
	評価 規 準	・「音名と音部記号」、「音符と休符」、「拍子」について理解している。 ・「ボレロ」の作曲者や曲が作曲された背景、曲調について理解している ・「翼をください」や「この道」をしっかりと音程で歌うことができる。		・「音名と音部記号」、「音符と休符」、「拍子」について学んだことを応用して考えている。 ・「翼をください」「この道」の歌詞の情景をイメージし、創意工夫を生かした表現をしようとしている。		・表現活動や鑑賞活動、楽典の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・音楽を奏でることの楽しさや美しさを感じようとしている。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	・器楽 「リコーダー」 リコーダーを演奏することで奏法を身に付け、奏法によって音色や響き、表情等の違いが生み出されることを理解する。また、アンサンブルを通してハーモニーの美しさを感じる。 ・鑑賞 「トゥーランドット」 オペラの構造について理解し、音色や旋律、曲想とのかかわりに関心を持つ。また音楽を評価しながら、音楽のよさや美しさを感じ取り、深く味わって聴く。	知識 技能		授業での活動	
				実技テスト等	
				課題やレポート	
		思考 判断 表現		授業での活動	
				課題やレポート	
				振り返りシート等	
		主体的に 学習に取り 組む態度		授業での活動	
				課題やレポート	
				振り返りシート等	
第2学期 期末 考查まで	・楽典 「音階と階名」、「音程」 音階や音程の仕組みを理解することで、歌唱や鑑賞の際に生かすことができる。また、音楽の基礎を理解し、より学びを深めることができる。 ・歌唱 「0 sole mio」、「美女と野獣」 「0 sole mio」を通して、イタリア語の歌詞や発音を理解し、表現を工夫して表情豊かに歌う。また「美女と野獣」を通して、歌詞を内容や登場人物の心情などを理解して、ハーモニーを感じながら歌う。	知識 ・ 技能		授業での活動	
				実技テスト等	
				課題やレポート	
		思考 判断 表現		小テスト	
				授業での活動	
				実技テスト等	
		主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート	
				小テスト	
				授業での活動	
第2学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		◎	○	○	
	評価 規 準	・リコーダーの演奏技術や奏法を身に付けている。 ・「トゥーランドット」「0 sole mio」の作曲者や曲が作曲された背景、曲調について理解している。 ・「音階と階名」「音程」の仕組みを理解している。	・リコーダーの演奏技術や奏法を身に付け、表現している。 ・「0 sole mio」「美女と野獣」の歌詞から背景をイメージして、自分なりに表現しようとしている。 ・「音階と階名」「音程」の仕組みを理解した後、応用して考えている。	・表現活動や楽典の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・音楽を奏でることの楽しさや美しさを感じようとしている。	
学年 末 考查まで	・創作 「旋律の雰囲気を変化させよう」 ある旋律に音を加えたり、リズムや拍子、調などを変えたりして、自分や他者の音楽を感じ取る。同時に記譜の仕方についても学び、正しい記譜ができるようにする。 ・日本の伝統音楽 日本にまつわるそれぞれの時代の様式や楽器の特徴について理解する。 ・歌唱 「蛍の光」 本曲が「蛍雪の功」のことわざを由来にしていることについて理解し、歌詞の意味を自ら考えながら理解する。また、卒業式での歌唱に挑む。	知識 技能		授業での活動	
				課題やレポート	
				作品や課題	
		思考 判断 表現		授業での活動	
				課題やレポート	
				作品や課題	
		主体的に 学習に取り 組む態度		授業での活動	
				課題やレポート	
				作品や課題	
第3学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		○	◎	○	
	評価 規 準	・「蛍の光」の歌について理解している。 ・日本の伝統音楽の様式や特徴について理解している。	・「蛍の光」の歌詞の意味について自らの力で考えている。 ・これまでに学んだことを踏まえて自ら創作活動に取り組み、自分の考えを表現することができる。	・表現活動や創作活動、鑑賞活動に主体的に取り組もうとしている。 ・音楽を奏でることの楽しさや美しさを感じようとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型				
教科	芸術	科目	美術 I		単位	2	必修 選択	選択
使用教科書		「高校生の美術1」(日本文教出版)		補助教材等				
科目の目標		対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めさせ、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考えさせ、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。主体的に美術の幅広い創造活動に取り組ませ、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。						
観点別評価		観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		重点	○		◎		○	
		評価 規 準	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。		・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。		・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。	
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
					観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考査まで	【表現】 絵画 名画の模写 ・教科書に掲載されている名画を模写することにより原画とイラストボードに描かれたマスを比較し、原画の輪郭線をイラストボードに正確に再現する。 ・輪郭線を描く際は、鉛筆と消しゴムの使い方を事前に理解する。 ・彩色に際しては、原画の色にこだわることなく、オリジナリティに溢れた色彩を発想し、表現する。 ・水彩絵の具を用いた色の塗り重ねにおいて、色を塗り重ねる順番を事前に計画だてて、濁り、滲みのないバランスの取れた色彩表現をする。				知識 技能	作品や課題		
						振り返りシート等		
						授業での活動		
					思考 判断 表現	作品や課題		
						振り返りシート等		
						課題やレポート		
第 1 学期 期末 考査まで	【鑑賞】 教養としての美術史① 原始美術からルネサンスまで ・紀元前の洞窟壁画からルネサンス期に至るまでの、西洋並びに東洋美術（日本を含む）作品を鑑賞し、それぞれの時代における表現技法やモチーフ、素材の違いを理解する。 ・人類文化の発展において美術が果たした役割について考察する。				知識 ・ 技能	課題やレポート		
						振り返りシート等		
						授業での活動		
					思考 判断 表現	小テスト		
						課題やレポート		
						振り返りシート等		
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		○		◎		○		
	評価 規 準	・造形の要素の働きを理解している。 ・意図に応じて絵筆や絵の具の特性を生かしている。 ・原画の色彩にとらわれず造形を創意工夫し、自分の主題を追求して創造的に表している。		・自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから造形を再構成し、主題を生成している。 ・イラストボードと絵の具の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		・主体的に絵画表現の創造活動に取り組もうとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第 2 学期 中間 考 査 まで	【表現】デザイン 公園遊具のデザイン - 架空の公園遊具をPowerPointを用いてデザインし、そのミニチュアモデルを制作する。ミニチュアモデルの制作時には、スチレンボードと針金だけを用いセロハンテープ等の接着剤は用いない。 - スチレンボード同士の接合は、針金あるいは継ぎのみによるものとし、接着剤を用いない。このことにより接合に関する知識と技能を高め、限られた技法で主題を表現する豊かな発想力を育てる。 - 成果物に、最低限直立することを求めるが、余力のある者は作品に着色してもよい。その際は、各パーツ間でバランスあるいは統一性の取れた色彩表現をすることで造形的なよさや美しさを追求する。			知識 技能	作品や課題
					振り返りシート等
					授業での活動
				思考 判断 表現	作品や課題
					振り返りシート等
					課題やレポート
				主体的に 学習に取り 組む態度	振り返りシート等
					課題やレポート
授業での活動					
作品や課題					
第 2 学期 期 末 考 査 まで	【鑑賞】教養としての美術史② バロック・ロココからモダンアートまで 1600年代から1900年代前半までの芸術作品を概観し作品に現れた近代自我のめばえと世界認識の方法を理解する。 - 同時代の西洋美術と東洋美術（日本美術を含む）を比較し、表現手段の違いを理解することで、日本の美術の歴史や表現の特質、それぞれの国の美術文化について考察し、見方や感じ方を深める。			知識 ・ 技能	課題やレポート
					振り返りシート等
					授業での活動
					小テスト
				思考 判断 表現	課題やレポート
					振り返りシート等
					授業での活動
					小テスト
				主体的に 学習に取り 組む態度	振り返りシート等
					課題やレポート
授業での活動					
第 2 学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評 価 規 準	・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・意図に応じてスチレンボードや針金の特性を生かしている。 ・限られた素材や技法の中で造形を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。	・目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成すること考え、主題を生成している。 ・デザインの機能や効果、スチレンボードと針金の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	・主体的にデザインの創造活動に取り組もうとしている。	
学 年 末 考 査 まで	【鑑賞】教養としての美術史③ コンテンポラリーアート - 難解といわれる現代アートの見方・考え方を美学・美術史の見地から提示した授業を聞き芸術（美術）とは何か、現代アートは芸術と言えるのかについて考察する。 - テキスト、グラフィック、映像等、多彩なメディアの混成によって成り立つ現代アートを鑑賞することで、現代人による自己表現について理解するとともに、それらのメディアを用いた自己表現ができるようになる。			知識 技能	課題やレポート
					振り返りシート等
					授業での活動
					小テスト
				思考 判断 表現	課題やレポート
					振り返りシート等
					授業での活動
					小テスト
				主体的に 学習に取り 組む態度	振り返りシート等
					課題やレポート
授業での活動					
第 3 学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評 価 規 準	・造形の要素の働きを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。	・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 ・日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などから美意識や創造性などを感じ取り、日本の美術の歴史や表現の特質、それぞれの国の美術文化について考え、見方や感じ方を深めている。	・主体的に作品や美術文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型				
教科	芸術	科目	書道 I		単位	2	必修 選択	選択
使用教科書		書 I（光村図書）		補助教材等				
科目の目標		書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を身につけさせる。						
観点別評価		観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		重点	◎	○		○		
		評価 規 準	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して、理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能や知識を身に付け、表している。	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し、個性豊かに表現を工夫している。 ・作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。		書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
					観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考 査 ま で	○書写から書道へ ・書写と書道の学習の違いを確認し、芸術科書道への関心・意欲を高める。 ○漢字の書【楷書】 唐の四大家の楷書 ・唐の四大家による古典の臨書・鑑賞を通して、楷書の規範・典型を学ぶとともに、同じ書体の中での書風の違いとその多彩な美を感じ取ることで、表現力の基礎を養う。				知識 技能	作品や課題		
						振り返りシート等		
					思考 判断 表現	作品や課題		
						振り返りシート等		
					主体的に 学習に 取 り 組 む 態 度	授業での活動		
						振り返りシート等		
第 1 学期 期 末 考 査 ま で	北魏の楷書 ・書風の多様性を知り、鑑賞・臨書することで、字形と用筆の特徴をつかむ。 創作 ・学習した楷書の書風を生かして意図に基づいて主体的に表現する。				知識 ・ 技能	作品や課題		
						小テスト		
						振り返りシート等		
					思考 判断 表現	作品や課題		
						振り返りシート等		
						実技テスト等		
					主体的に 学習に 取 り 組 む 態 度	授業での活動		
						振り返りシート等		
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
		◎	○		○			
	評価 規 準	・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能や知識を身に付けている。 ・古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能や知識を身に付けている。	・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 ・意図に基づいた表現について構想し工夫している。		主体的に漢字の書の幅広い表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	○篆刻 雅印制作 ・印の作品における役割や種類を知り、篆刻の用具・用材、手順について理解する。 ○漢字の書【行書】 「蘭亭序」「風信帖」臨書 ・鑑賞・臨書を通して、行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。	知識 技能		作品や課題	
		思考 判断 表現		作品や課題	
				振り返りシート等	
		主体的に 学習に取り 組む態度		授業での活動	
				振り返りシート等	
第2学期 期末 考查まで	○仮名の書 仮名の成立と種類 ・日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立について理解する。 平仮名の単体・連綿の練習 ・仮名の基本的な筆使いを学ぶ。 古筆鑑賞 ・「継色紙」「升色紙」「寸小庵色紙」を鑑賞し、伝統的な構成方法と古筆の美しさを味わい、書に対する感性を豊かにする。	知識 ・ 技能		作品や課題	
				小テスト	
		思考 判断 表現		作品や課題	
				振り返りシート等	
				実技テスト等	
		主体的に 学習に取り 組む態度		授業での活動	
				振り返りシート等	
第2学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		◎	○	○	
	評価 規 準	・書写能力を向上させるとともに書の伝統に基づき作品を効果的に表現するための基礎的な技能や知識を身に付け表している。 ・漢字の書体の変遷、仮名の成立等について理解している。	・書の上さや美しさを感じ、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の上を味わい深く捉えたりしている。	主体的に漢字や仮名の書の幅広い表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
学年 末 考查まで	○漢字仮名交じりの書 ・自分の心に響いた言葉を素材に、漢字と仮名の調和を図りながら、古典を生かした表現や、現代に生きる表現について構想し工夫して創作する。 ・自分の作品と友達の作品を互いに鑑賞し、作品について根拠をもって批評出来るような思考力や表現力を身につける。	知識 技能		作品や課題	
		思考 判断 表現		作品や課題	
				振り返りシート等	
				実技テスト等	
		主体的に 学習に取り 組む態度		授業での活動	
				振り返りシート等	
第3学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		◎	○	○	
	評価 規 準	・目的や用途に即した効果的な表現の技能や知識を身に付けている。 ・漢字と仮名の調和した線質による表現の技能や知識を身に付けている。	・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について構想し工夫している。 ・目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。 ・名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。	主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型				
教科	外国語	科目	英語コミュニケーション I	単位	1	必修 選択	必修	
使用教科書	「All Aboard! English Communication I」 (東京書籍)		補助教材等					
科目の目標	日常的、身近な話題について、多くの支援を活用すれば、 ・必要な情報を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意図や概要を捉えたりすることができるようにする。 ・基本的な語句を用いて、気持ちなどを話して伝え合うやり取りをすることができるようにする。 ・基本的な語句や文を用いて、自分の考えを書いて伝えたり、発表したりできるようにする。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価 規 準	・必要な情報を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意図や概要を捉える知識を身に付けている。 ・基本的な語句を用いて、自分の考えや意見などを話して伝え合うやり取りができる技能を身に付けている。		・必要な情報を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意図や概要を捉えている。 ・日常的、身近な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合っている。		・必要な情報を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意図や概要を捉えようとしている。 ・聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりしようとしている。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
					観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考 査 ま で	Lesson8 A Door to a New Life ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える。現在完了形の表現を学んだ上でロボットカフェについて知る。人々の生活を豊かにするロボットのアイデアについて考え、簡単な英語を使って感想を述べる。 Lesson 9 Fighting Plastic Pollution プラスチックごみによる環境汚染の問題に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしてプラスチックごみの問題について理解を深める。自分たちにできることについて自分の考えをまとめ、簡単な英語を使ってきたし話し合ったりする。				知識 技能	定期考査等		
						課題やレポート		
						振り返りシート等		
					思考 判断 表現	課題やレポート		
						定期考査等		
						授業での活動		
第 1 学期 期 末 考 査 ま で	Lesson 10 Pigs from across the Sea 第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。海外の文化や社会に対する理解を深める活動について、英語で理解を深め、簡単な英語を使って感想を述べる。 Reading2 The Wizard of Oz ・ドロシーと愛犬のトトが自分の家にたどりつくまでの冒険物語を読み、場面や登場人物の心情を読み取る。 ・主人公のドロシーを中心に、登場人物の気持ちを考えながら音読する。				知識 ・ 技能	定期考査等		
						課題やレポート		
						振り返りシート等		
					思考 判断 表現	課題やレポート		
						定期考査等		
						授業での活動		
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		◎		○		○		
	評価 規 準	・本文の内容について、話し手や書き手の意図や概要を捉える知識を身に付けている。 ・本文で学んだ内容に関する情報や自分の考えをまとめ、相手に伝える技能を身に付けている。		・本文の内容について、話し手や書き手の意図や概要を捉えている。 ・本文で学んだ内容に関する情報や自分の考えをまとめ、相手に伝わるよう書いたり話ししたりしている。		・本文の内容について、話し手や書き手の意図や概要を捉えようとしている。 ・本文で学んだ内容に関する情報や自分の考えをまとめ、相手に伝えようとしている。		

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型				
教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位	2	必修 選択	必修	
使用教科書	「All Aboard! English CommunicationⅡ」 (東京書籍)		補助教材等					
科目の目標	日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、 ・必要な情報を読んだり聞いたりして、文章や話の展開、書き手や話し手の意図を把握することができるようにする。 ・学んだ語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りができるようにする。 ・学んだ語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えたり、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価 規 準	・英文を読んだり聞いたりして、文章や話の展開、書き手や話し手の意図を把握することができる知識を身に付けている。 ・学んだ語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話したり書いたりする技能を身に付けている。		・英文を読んだり聞いたりして、文章や話の展開、書き手や話し手の意図を把握している。 ・学んだ語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話したり書いたりしてペアでのやりとりをしている。		・英文を読んだり聞いたりして、文章や話の展開、書き手や話し手の意図を把握しようとしている。 ・学んだ語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話したり書いたりしてペアでのやりとりをしようとしている。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価				
第 2 学期 中間 考 査 ま で	Pre-Lesson My Plans for This Year 新学期の計画について考え、クラスメートと対話したり、インタビューしたりする。今年やってみたいことについて、ペアで英語でのやり取りを行う。 Lesson1 A Colorful Island イタリアのプラーノ島への旅行を報告するSNSを通して、その島の特色について学習する。関係代名詞whatの用法を学ぶ。海外で行ってみたい場所について英語で書き、発表する。			知識 技能	定期考査等			
					実技テスト等			
					振り返りシート等			
				思考 判断 表現	定期考査等			
					実技テスト等			
第 2 学期 期 末 考 査 ま で	Lesson2 With the Beatles 曲をリクエストしたラジオ番組の聴取者とディスクジョッキーの対話を通して、世代を超えて人気のあるバンドについて学習する。比較表現more, the mostの用法について学ぶ。世代を超えて人気のある人物について考え、英語でペアで話し合う。 Lesson3 Wild Men ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」についてのスピーチを通して人間社会と自然について考える。itの用法について学ぶ。身近な行事について、英語で書き、紹介する。			主体的に 学習に 取り組む 態度	実技テスト等			
					作品や課題			
					振り返りシート等			
				知識・ 技能	定期考査等			
					実技テスト等			
第 2 学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		◎		○		○		
		評価 規 準	・学んだことをもとに、様々な話題についての英文を読み、英文の概要を捉える知識を身に付けている。 ・情報や考えなどを話して伝える技能を身に付けている。		・学んだことをもとに、様々な話題についての英文を読み、英文の概要を捉えている。 ・学んだ語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを話して伝えている。		・学んだことをもとに、様々な話題についての英文を読み、英文の概要を捉えようとしている。 ・学んだ語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを話して伝えようとしている。	

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）		観点別評価		
			観 点	評価の手段	
学年末 考査まで	Lesson4 Little Hero 世界最小の鳥であるハチドリを紹介する記事とハチドリの物語を通して、不断の努力と不屈の心について考える。間接疑問文の用法について学ぶ。自分の好きな物語を簡単な英語を用いて英語で紹介する。 Reading1 Mujina 江戸時代を舞台にした怪談を読み、情景や登場人物の心情を読み取る。情景や登場人物の心情を想像しながら、怪談を題材にした物語を暗唱する。	知識 技能		定期考査等	
				実技テスト等	
				振り返りシート等	
		思考 判断 表現		定期考査等	
				実技テスト等	
				課題やレポート	
		主体的に 学習に取り 組む態度		実技テスト等	
				作品や課題	
				振り返りシート等	
		第3学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現
◎	○			○	
評価 規 準	・学んだことをもとに、様々な話題についての英文を読み、英文の概要を捉える知識を身に付けている。 ・情報や考えなどを話して伝える技能を身につけている。			・学んだことをもとに、様々な話題についての英文を読み、英文の概要を捉えている。 ・学んだ語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを話して伝えている。	・学んだことをもとに、様々な話題についての英文を読み、英文の概要を捉えようとしている。 ・学んだ語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを話して伝えようとしている。

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2 年	学科	商業科	類型								
教科	外国語	科目	英語演習		単位	2	必修 選択	選択				
使用教科書	New エキスパート英語検定 練習問題集 2nd edition (桐原書店)		補助教材等	ワークシート、小テスト								
科目の目標	文章読解と表現のために必要な基本的な能力を身につけ、場面や目的、状況に応じて適切に活用する力と、様々な課題に主体的に関わろうとする態度を養う。 ①説明や物語を読んで、情報や考えなどを理解したり概要や要点をとらえる。 ②情報や考えについて簡潔に書く。 ③課題について調べ、考察し、英語で論理的にプレゼンテーションする。											
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度						
	重点	◎		○		○						
	評価 規 準	・情報や考え、気持ちなどを伝え合うために必要となる語彙や表現、概念、音声等を理解している。 ・身近な話題について、情報や自分の考えや気持ちを話して伝えあったり、書いたりする技能を身につけている。		・聞いたり、読んだりした英文の概要、要点を整理し、必要な情報を捉えている。 ・相手に理解してもらえるように、身近な話題について、情報や自分の考えや気持ちを即興で伝え合ったり、整理して伝えている。		・聞いたり、読んだりした英文の概要、要点を整理し、必要な情報を捉えようとしている。 ・相手に理解してもらえるように、身近な話題について、情報や自分の考えや気持ちを即興で伝え合ったり、整理して伝えようとしている。						
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価							
					観 点	評価の手段						
第 1 学期 中間 考 査 ま で	【英語での自己紹介】 ・ペアやグループになって英語で自己紹介を行う。その際、自分の経歴や興味関心のあることを盛り込み、アイコンタクトを取るようにする。最後は教員やクラス生徒に対して自己紹介をし、質疑応答を受ける。 【全商英検の小テストとワークシート】 ・文章読解と表現のために必要な基本的な能力を身につけるため、全商英検2級程度の英単語小テストを毎時間行う。英単語学習は基本的に個人学習になるが、その際英単語を書いたり、声に出したり、ペアワークで問題を出し合ったりして、できるだけ刺激を多くする。 ・ワークシートで全商英検2級の説明文や物語文を読み、情報や考えなどを理解したり概要や要点をとらえる。	知識 技能	定期考査等 授業での活動 課題やレポート		思考 判断 表現	定期考査等 授業での活動 課題やレポート						
		主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 実技テスト等 作品や課題 振り返りシート等		主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 実技テスト等 作品や課題 振り返りシート等						
		知識 ・ 技能	定期考査等 授業での活動 課題やレポート		思考 判断 表現	定期考査等 授業での活動 課題やレポート						
第 1 学期 期 末 考 査 ま で	【課題研究と英作文】 ・課題について調べてまとめ、情報や自分の考えについて論理的にかつ簡潔に書く。 【全商英検の小テストと教科書】 ・文章読解と表現のために必要な基本的な能力を身につけるため、全商英検2級程度の英単語小テストを毎時間行う。 ・説明や物語を読んで、情報や考えなどを理解したり概要や要点をとらえるため、全商英検2級練習問題集を使い、Listening・Speakingに関する下記の項目について習得する。 ①アクセント ②応答文（英問英答） ③聞き方（1）写真等（英問英答）	主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 実技テスト等 作品や課題 振り返りシート等			主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 実技テスト等 作品や課題 振り返りシート等					
第 1 学期	観点別 評価		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
			◎			○			○			
	評価 規 準		・情報や考え、気持ちなどを伝え合うために必要となる語彙や表現、概念、音声等を理解している。 ・自分自身のことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを話して伝えあったり、書いたりする技能を身につけている。			・本文の概要、要点を整理し、必要な情報を捉えている。 ・相手に理解してもらえるように、自分自身のことについて、情報や自分の考えや気持ちを即興で伝え合ったり、整理して伝えている。			・本文の概要、要点を整理し、必要な情報を捉えようとしている。 ・相手に理解してもらえるように、自分自身のことについて、情報や自分の考えや気持ちを即興で伝え合ったり、整理して伝えようとしている。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価					
				観 点	評価の手段				
第2学期 中間 考査まで	【課題研究と英語プレゼンテーション作成】 ・課題について英語で調べたことをGoogle SLIDEを利用して論理的なプレゼンテーションを作る。 【全商英検の小テストと教科書】 ・文章読解と表現のために必要な基本的な能力を身につけるため、全商英検2級程度の英単語小テストを毎時間行う。 ・説明や物語を読んで、情報や考えなどを理解したり概要や要点をとらえるため、全商英検2級練習問題集を使い、Listening・Speakingに関する下記の項目について習得する。 ④聞き方（2）中文（英問英答） ⑤聞き方（3）中文（適文選択） ⑥聞き方（4）会話文（英問英答） 重要会話表現集（1）			知識 技能	定期考査等				
					授業での活動				
					課題やレポート				
				思考 判断 表現	定期考査等				
					授業での活動				
					課題やレポート				
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動				
					実技テスト等				
					作品や課題 振り返りシート等				
				第2学期 期末 考査まで	【課題研究まとめおよび、プレゼンテーションの練習】 ・課題について英語で調べたことをGoogle SLIDEにまとめ、英文スクリプトを完成させて覚え、アイコンタクトやジェスチャーを交えた効果的なプレゼンテーションができるように練習する。 【全商英検の小テストと教科書】 ・文章読解と表現のために必要な基本的な能力を身につけるため、全商英検2級程度の英単語小テストを毎時間行う。 ・説明や物語を読んで、情報や考えなどを理解したり概要や要点をとらえるため、全商英検2級練習問題集を使い、Readingに関する下記の項目について習得する。 ⑦長文（内容一致） ⑧会話文（適文挿入） 2級頻出連語集（1）			知識・ 技能	定期考査等
									授業での活動
									課題やレポート
思考 判断 表現	定期考査等								
	授業での活動								
	課題やレポート								
主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動								
	実技テスト等								
	作品や課題 振り返りシート等								
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○					主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・情報や考え、気持ちなどを伝え合うために必要となる語彙や表現、概念、音声等を理解している。 ・日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを話して伝えあったり、書いたりする技能を身につけている。	・本文の概要、要点を整理し、必要な情報を捉えている。 ・相手に理解してもらえるように、日常的な話題について、情報や自分の考えや気持ちを即興で伝え合ったり、整理して伝えている。					・本文の概要、要点を整理し、必要な情報を捉えようとしている。 ・相手に理解してもらえるように、日常的な話題について、情報や自分の考えや気持ちを即興で伝え合ったり、整理して伝えようとしている。	
学年 末 考査まで	【課題研究プレゼンテーション発表と評価】 ・課題について英語で調べたことをGoogle SLIDEにまとめ、アイコンタクトやジェスチャーを交えた効果的なプレゼンテーションを行う。また、教師だけでなく、生徒相互でも評価を行い、質疑応答を行う。 【全商英検の小テストと教科書】 ・文章読解と表現のために必要な基本的な能力を身につけるため、全商英検2級程度の英単語小テストを毎時間行う。 ・説明や物語を読んで、情報や考えなどを理解したり概要や要点をとらえるため、全商英検2級練習問題集を使い、Writingに関する下記の項目について習得する。 ⑨短文（適語選択） ⑩長文（適語選択） ⑪短文（語形変化） ⑫短文（文構成）、2級頻出連語集（1）			知識 技能	定期考査等				
					授業での活動				
					課題やレポート				
				思考 判断 表現	定期考査等				
					授業での活動				
					課題やレポート				
				主体的に 学習に取り 組む態度	振り返りシート等				
					授業での活動				
					課題やレポート 実技テスト等				
				第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
					評価 規 準	・情報や考え、気持ちなどを伝え合うために必要となる語彙や表現、概念、音声等を理解している。 ・日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを話して伝えあったり、書いたりする技能を身につけている。	・本文の概要、要点を整理し、必要な情報を捉えている。 ・相手に理解してもらえるように、日常的な話題について、情報や自分の考えや気持ちを即興で伝え合ったり、整理して伝えている。	・本文の概要、要点を整理し、必要な情報を捉えようとしている。 ・相手に理解してもらえるように、日常的な話題について、情報や自分の考えや気持ちを即興で伝え合ったり、整理して伝えようとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型				
教科	家庭	科目	家庭総合		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書		家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)		補助教材等	生活学Navi 資料+成分表（実教出版） とやまの高校生ライフプランガイド （富山県教育委員会） 学習ノート（東京書籍）			
科目の目標		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。						
観点別評価		観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		重点	○		◎		○	
		評価規準	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
					観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考 査 ま で	家庭科の学び方、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ・家庭クラブ活動の一日家事労働体験を通して、自立・労働について理解する。 ・ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 第1章 生涯を見通す ・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解し、歩みたい人生の目標を描く。 第7章 衣生活をつくる 1被服の役割を考える、2被服を入手する、3被服を管理する ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。 ・健康・快適・安全な生活を送る為に被服に施されている工夫について理解する。 ・被服表示を参考に目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。 ・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。				知識 技能	定期考査等		
						作品や課題 課題やレポート 授業での活動		
					思考 判断 表現	定期考査等		
						作品や課題 課題やレポート 授業での活動		
第 1 学期 期 末 考 査 ま で	第7章 衣生活をつくる 3被服を管理する、4被服を作る ・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。 ・これまで学習してきた被服の機能、素材と管理の知識を応用しながら目的に合った被服を製作する。 第6章 食生活をつくる 1食生活の課題について考える 2食事と栄養・食品 ・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 ・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。 ホームプロジェクト ・ホームプロジェクトの意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。				知識 ・ 技能	定期考査等		
						実技テスト等 作品や課題 授業での活動		
					思考 判断 表現	定期考査等		
						実技テスト等 作品や課題 振り返りシート等		
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能	◎	思考・判断・表現	○	主体的に学習に取り組む態度 ○		
第 1 学期	評価規準	生活を主体的に営むために必要な人の一生、衣生活、食生活分野の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。		ライフプラン、衣生活、食生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。		

期間		学習指導計画（学習内容とそのねらい）		観点別評価	
		観 点	評価の手段		
第 2 学期 中間 考 査 ま で	ホームプロジェクト発表 ・ホームプロジェクトの発表を通して、自分の考えを人にわかりやすく伝える方法を学ぶ。 第6章 食生活をつくる 3食品の選択と安全 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。 第9章 経済生活を営む 1情報の収集・比較と意思決定, 2購入・支払いのルール, 3消費者の権利と責任 ・自立した責任ある消費者としてよりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。	知識 技能		定期考査等	
				作品や課題	
				課題やレポート	
				授業での活動	
		思考 判断 表現		定期考査等	
				作品や課題	
				課題やレポート	
				授業での活動	
		主体的に 学習に取り 組む態度		作品や課題	
				課題やレポート	
				授業での活動	
				振り返りシート等	
第 2 学期 期 末 考 査 ま で	第6章 食生活をつくる 5調理の基礎 ・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工により美味しさが変化することを科学的に捉える。 ・配膳やマナーに関心を持つ。 第3章子どもと共に育つ 1命を育む 2子どもの育つ力を知る 3子どもと関わる 4子どもとの触れ合いから学ぶ ・子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 ・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。	知識 ・ 技能		定期考査等	
				実技テスト等	
				作品や課題	
				授業での活動	
		思考 判断 表現		定期考査等	
				実技テスト等	
				作品や課題	
				授業での活動	
		主体的に 学習に取り 組む態度		作品や課題	
				課題やレポート	
				授業での活動	
				振り返りシート等	
第 2 学期	観 点 別 評 価	知識・技能		主体的に学習に取り組む態度	
		○		◎	
		生活を主体的に営むために必要な消費生活、環境、家族や保育、食生活分野の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	
学 年 末 考 査 ま で	第4章超高齢社会を共に生きる 第5章 共に生き、共に支える 1超高齢・大衆長寿社会の到来, 2高齢期の心身の特徴 3共に生きる・地域の防災力を高めよう ・超高齢社会の背景を理解し、高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・ともに生きるノーマライゼーションの考え方を基礎に、高齢者や障害者への理解を深め、私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たしつなげていけばよいか考えて実践しようとする。 第6章 食生活をつくる 5調理の基礎その2 ・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工により美味しさが変化することを科学的に捉える。 ・調理実習（防災食）を通して、防災についての意識を高める。 ・班員で協力して、安全かつ衛生的に調理実習を行い、食生活を計画的・合理的に営み、その充実向上を図る能力を伸長する。	知識 技能		定期考査等	
				作品や課題	
				課題やレポート	
				授業での活動	
		思考 判断 表現		定期考査等	
				作品や課題	
				課題やレポート	
				授業での活動	
		主体的に 学習に取り 組む態度		作品や課題	
				課題やレポート	
				授業での活動	
				振り返りシート等	
第 3 学期	観 点 別 評 価	知識・技能		主体的に学習に取り組む態度	
		○		◎	
		生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、食生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	
		人的一生、と家族・家庭及び福祉、食生活、環境の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型				
教科	商業	科目	財務会計Ⅰ		単位	4	必修 選択	選択
使用教科書	「新財務会計Ⅰ」 (実教出版)		補助教材等	最新段階式 簿記検定問題集 改訂版 全商 1 級 会計 (実教出版)				
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。							
観点別評価	観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価 規 準	財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な知識・技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理することができる。		いろいろな処理法や記帳法、財務諸表の作成方法について、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。また、その成果を会計情報の提供という形で適切に表現することができる。		財務会計に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身につけている。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
					観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考 査 ま で	第 1 編 財務会計の基礎 第 1 章 企業と会計 ・企業会計の意味と役割、基礎的な会計処理について理解させる。 第 2 章 企業会計制度と会計法規 ・企業会計制度の意味を明らかにし、会計法規の必要性について理解させる。 第 2 編 貸借対照表 第 3 章 貸借対照表のあらまし ・貸借対照表の意味と役割を理解させる。 第 4 章 資産の意味・分類・評価 ・資産の評価の意味と損益計算との関係について理解し、評価基準の種類、内容、特徴等について理解させる。 第 5 章 流動資産PART 1 当座資産 ・当座資産の意味および種類を理解し、貸借対照表の当座資産に関する部分の作成を行う。				知識 技術	実技テスト等		
						授業での活動		
						振り返りシート等		
					思考 判断 表現	定期考査等		
						実技テスト等		
						課題やレポート		
第 1 学期 期 末 考 査 ま で	第 6 章 流動資産PART 2 棚卸資産・その他の流動資産 ・棚卸資産の意味と種類を理解し、各項目の会計処理を習得させる。 第 7 章 固定資産PART 1 有形固定資産 ・有形固定資産の意味と種類を理解し、取得原価の計算方法を習得させる。 ・リース取引の意味と種類を理解し、各取引の記帳について習熟させる。 第 8 章 固定資産PART 2 無形固定資産 ・無形固定資産の意味と種類を理解し、取得原価の計算方法を習得させる。 第 9 章 固定資産PART 3 投資その他の資産 ・投資その他の資産の意味と種類を理解させる。 第 10 章 負債の意味と分類 ・負債の意味と分類について、基礎的知識を習得させる。 第 11 章 流動負債 ・流動負債の各項目の内容を正確に習得させる。 第 12 章 固定負債 ・固定負債の各項目の内容を正確に習得させる。				知識・ 技術	実技テスト等		
						授業での活動		
						振り返りシート等		
					思考 判断 表現	定期考査等		
						実技テスト等		
						課題やレポート		
第 1 学期	観点別 評価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		◎		○		○		
		評価 規 準	・会計の意味や機能、会計法規の種類や目的について、正しく理解している。 ・資産・負債の分類の仕方について正しく理解し、適切な会計処理及び貸借対照表を作成できる。		・資産・負債の評価について正しく理解し、分類の仕方について、営業循環基準と1年基準を用いて説明できる。 ・資産及び負債の分類がどのようなものか説明できる。		・財務会計の役割について、自ら進んで実際の事例を調べようとしている。 ・資産・負債の分類や会計処理を正しく理解し、自ら進んで貸借対照表の作成に取り組もうとしている。	

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第 2 学期 中間 考 査 まで	第13章 純資産の意味と分類 ・株式会社の株主資本の分類および内容を理解させる。 第14章 資本金 ・株式会社の資本金の意味と計算を習得させる。 第15章 資本剰余金 ・資本準備金、その他資本剰余金に関する処理を理解させる。 第16章 利益剰余金 ・利益剰余金の意味を明らかにする。 第17章 自己株式 ・自己株式の意味を理解させる。 第18章 新株予約権 ・新株予約権の意味を理解させる。 第19章 貸借対照表の作成 ・貸借対照表作成上の諸原則を明らかにし、その作成方法を習得させる。	知識 技術	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等
					授業での活動
					振り返りシート等
					定期考査等
					実技テスト等
					課題やレポート
					授業での活動
					定期考査等
					振り返りシート等
					実技テスト等
					作品や課題
第 2 学期 期末 考 査 まで	第 3 編 損益計算書 第20章 損益計算書のあらまし ・損益計算書の意味と役割を理解させる。 第21章 損益計算の意味と基準 ・損益計算の意味と計算方法（財産法と損益法）について理解させる。 第22章 売上高 ・売上高の計上基準と、会計処理を理解させる。 第23章 売上原価、販売費及び一般管理費 ・売上原価の意味と計算方法を理解させる。 第24章 営業外費用・営業外収益 ・営業外収益・営業外費用の内容を明らかにし、経常損益を理解させる。 第25章 特別利益・特別損失 ・特別利益・特別損失の意味と内容を明らかにし、会計処理を理解させる。 第26章 損益計算書の作成 ・損益計算書作成上の諸原則を明らかにし、その作成方法を習得させる。 第27章 その他の財務諸表 ・株主資本等変動計算書の意味とその作成方法を理解させる。	知識 ・ 技術	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等
					授業での活動
					振り返りシート等
					定期考査等
					実技テスト等
					課題やレポート
					授業での活動
					定期考査等
					振り返りシート等
					実技テスト等
					作品や課題
第 2 学期	観点別 評価	知識・技術 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・資本金・資本剰余金・利益剰余金・自己株式・新株予約権のそれぞれの意味を理解し、適切な会計処理ができる。 ・株主資本等変動計算書の意味を理解し、その作成ができる。	・貸借対照表を作成するために必要な原則について、説明できる。 ・損益計算書を作成するために必要な原則について、説明できる。	・実際の財務諸表を入手し、どのようなことが記載されているか、自ら進んで調べようとしている。 ・自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。	
学 年 末 考 査 まで	第29章 外貨建取引 ・外貨建取引の意味を理解させ、適切な会計処理を習得させる。 第30章 税効果会計 ・税効果会計の意味と役割を理解させる。 第 5 編 財務諸表の活用 第31章 財務諸表のディスクロージャー ・企業と利害関係者、ディスクロージャーについて理解させる。 第32章 財務諸表分析 ・財務諸表分析の意味・方法を明らかにする。 第33章 連結財務諸表のあらまし ・連結財務諸表の意味や目的を明らかにし、連結財務諸表の概略を理解させる。 発展編 連結財務諸表の作成 第34章 連結財務諸表の作成 ・連結財務諸表の作成手続きを理解させ、連結精算表の作成を習得させる。	知識 技術	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等
					授業での活動
					振り返りシート等
					定期考査等
					実技テスト等
					課題やレポート
					授業での活動
					定期考査等
					振り返りシート等
					実技テスト等
					作品や課題
第 3 学期	観点別 評価	知識・技術 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・外貨建取引・税効果会計の意味を理解し、適切な会計処理ができる。 ・財務諸表分析の意味と方法について、正しく理解している。 ・親会社と子会社の意味を正しく理解している。	・円換算・為替予約の意味を理解し、円安・円高の影響が実際の企業に与える影響について説明できる。 ・企業会計上の収益・費用と課税所得計算上の益金・損金に興味を持ち、その違いを説明できる。	・自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型				
教科	商業	科目	原価計算		単位	4	必修 選択	選択
使用教科書	原価計算 (実教出版)		補助教材等		最新段階式 簿記検定問題集 改訂版 全商 1 級 原価計算 (実教出版)			
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。また、原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身につけるようにする。							
観点別評価	観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価規準	製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、原価計算に基本的な仕組み及び工業簿記の基本構造について理解している。		各種の原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて、なぜそのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけている。		製造業における原価計算と工業簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、原価計算から得られる情報を活用する態度を身につけようとしている。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
					観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考 査 ま で	【第 1 編】 原価計算の基礎 第 1 章 原価と原価計算 ・工業簿記は製造業に適用されるものであることを理解させる。 ・工業簿記と原価計算の関係を理解させる。 第 2 章 原価計算のあらまし ・原価要素の性格とその分類について理解させる。 ・原価計算の 4 つの目的について理解させる。 ・原価計算期間について理解させる。 第 3 章 工業簿記～製造業における簿記～ ・工業簿記に特有な勘定科目とそれぞれの記帳方法を理解させる。 ・工業簿記の全体的な構造を理解させる。				知識 技術	実技テスト等		
						授業での活動		
						振り返りシート等		
					思考 判断 表現	定期考査等		
						主体的に 学習に取り組む 態度	実技テスト等	
							作品や課題	
第 1 学期 期 末 考 査 ま で	【第 2 編】 原価計算の費目別計算 第 4 章 材料費の計算 ・材料費の仕入れと記帳方法、元帳への転記を理解させる。 ・材料の消費単価と消費数量の計算方法について理解させる。 ・予定価格により、消費高を計算することの意味。予定価格を用いた二通りの記帳方法を理解させる。 第 5 章 労務費の計算 ・労務費の分類とその内容を理解させる。 ・予定賃率による消費賃金の計算と記帳方法を理解させる。 第 6 章 経費の計算 ・経費の消費高の計算と記帳方法を理解させる。				知識・ 技術		実技テスト等	
						授業での活動		
						振り返りシート等		
					思考 判断 表現	定期考査等		
						主体的に 学習に取り組む 態度	実技テスト等	
							作品や課題	
第 1 学期	観点別 評価	知識・技術		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
		◎		○		○		
	評価規準	・製造業の特徴や原価の基本的な内容について理解している。 ・原価要素の性格とその分類について理解している。 ・工業簿記における勘定記入の特徴を理解し、一連の流れを記帳することができる。		・工業簿記と原価計算の関係について理解し、適用される場面を思考・判断することができる。 ・製造直接費と製造間接費の区別の必要性や、製造活動に関わる勘定の特性について考え、表現することが出来る。		・製造業における原価計算と工業簿記に興味を示し、自ら学習しようとする態度が見られる。 ・自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 期末 考 査 ま で	【第3編】 原価の部門別計算と製品別計算 第7章 個別原価計算 ・個別原価計算の仕組みを理解させる。 ・製造間接費の配賦についての概要を理解させる。 ・製造間接費の差異分析を理解させる。 第8章 部門別個別原価計算 ・部門別個別原価計算の必要性を理解させる。 ・部門費配分表、部門費振替票を作成させ、それぞれに基づく仕訳をマスターさせる。 第9章 総合原価計算 ・平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の計算をマスターさせる。 ・単純総合原価計算の作成と記帳法を理解させる。	知識 技術	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等
					授業での活動
					振り返りシート等
					定期考査等
					実技テスト等
					課題やレポート
					授業での活動
					定期考査等
					振り返りシート等
					実技テスト等
					作品や課題
第2学期 期 末 考 査 ま で	・等級別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と等級別総合原価計算の仕組みを理解させる。 ・組別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と仕組みを理解させる。 第10章 工程別総合原価計算 ・工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解させる。 ・工程別総合原価計算表の作成を通して、工程別総合原価計算の仕組みを理解させる。 ・半製品の意味と半製品がある場合の記帳方法について理解させる。 第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理 ・減損の意味と、それが発生した場合の処理方法を理解させる。 ・副産物、作業くず、仕損品の意味とそれぞれが発生した場合の記帳方法について理解させる。	知識 ・ 技術	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等
					授業での活動
					振り返りシート等
					定期考査等
					実技テスト等
					課題やレポート
					授業での活動
					定期考査等
					振り返りシート等
					実技テスト等
					作品や課題
第2学期	観点別 評価	知識・技術 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・原価元帳と仕掛品の関係を理解できている。 ・個別原価計算の仕組みを理解し、原価計算表に記入できる。 ・製造間接費の配賦方法について理解し、適切に配賦を行うことができる。	・生産形態の違いから、原価計算の方法が異なることを理解し、それぞれの違いを説明できる。	・自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。	
学年 末 考 査 ま で	【第4編】 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売 ・製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法を理解させる。 第13章 決算と本社・工場間の取引 ・月次決算の意味と年次決算との関連について理解させる。 ・財務諸表の特色を理解させ、製造原価報告書の作成に習熟させる。 【第5編】 標準原価計算の基礎 第14章 第15章 標準原価計算 ・標準原価計算の意義と特色、全体的な流れを理解させる。 【第6編】 直接原価計算の基礎 第16章 第17章 ・CVP分析や損益分岐図表により、関係を理解させる。	知識 技術	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等
					授業での活動
					振り返りシート等
					実技テスト等
					課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
					実技テスト等
					作品や課題
第3学期	観点別 評価	知識・技術 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・標準原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。 ・標準原価計算により完成品原価や月末仕掛品原価が計算できる。 ・原価標準の設定の目的について理解できている。	・原価差異の算出ができ、その結果から差異の原因について適切に分析することができる。	・自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型				
教科	商業	科目	ソフトウェア活用	単位	4	必修 選択	選択	
使用教科書	「ソフトウェア活用」 (実教出版)		補助教材等	学習と検定 全商情報処理検定テキスト 1 級 ビジネス情報部門 (実教出版)				
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
観点別評価	観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	○		◎		○		
	評価 規 準	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体のかつ協働的に取り組もうとしている。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
					観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考 査 ま で	1 章 企業活動とソフトウェア活用 1 節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 ・ソフトウェアの活用を考える学習活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 2 節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化 ・ソフトウェアの進化が、社会の変化に与える影響を考える学習活動により、関連する知識を身に付ける。 2 章 情報通信ネットワークの活用 1 節 情報通信ネットワークの導入と運用 ・ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解する。 2 節 情報資産の保護 ・情報資産を保護するため、ソフトウェアの脆弱性への対応や、無停電電源装置の活用などのリスクを適切に管理する方法について理解する。				知識 技術	実技テスト等		
						授業での活動		
						振り返りシート等		
					思考 判断 表現	定期考査等		
						実技テスト等		
						課題やレポート		
					授業での活動			
					定期考査等			
					振り返りシート等			
第 1 学期 期 末 考 査 ま で	3 章 表計算ソフトウェアの活用 1 節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 ・表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解する。 2 節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ ・表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎を理解する。 3 節 手続きの自動化 ・マクロの記録機能を用いて、手続きの自動化の考え方を理解し、基本的な技術を身に付ける。				知識 ・ 技術	実技テスト等		
						授業での活動		
						振り返りシート等		
					思考 判断 表現	定期考査等		
						実技テスト等		
						課題やレポート		
					授業での活動			
					定期考査等			
					振り返りシート等			
第 1 学期	観点別 評価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		○		◎		○		
	評価 規 準	・ソフトウェアの意義と重要性について考え、理解できたか。 ・ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解している。 ・情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術について理解している。		・ソフトウェアの意義と社会課題について、様々な社会活動と関連付けてみだせる。		・ソフトウェアの役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとしている。 ・ソフトウェアとビジネスや社会課題との関連について自ら学び、適切に活用し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）		観点別評価	
			観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース ・データベースの特徴や基本的な機能を理解する。 2節 データベースの作成と操作 ・データベースソフトウェアを活用するための知識と技術について理解する。 3節 手続きの自動化 ・フォームを用い、手続きを登録する方法を理解する。 4節 データベースの構造 ・データベースの構造を理解する。また表を正規化するための手順を理解する。	知識 技術		実技テスト等
				授業での活動
				振り返りシート等
		思考 判断 表現		定期考查等
				実技テスト等
				課題やレポート
		主体的に 学習に取り 組む態度		授業での活動
				定期考查等
				振り返りシート等
第2学期 期末 末考 査まで	5節 SQLの操作 ・SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。 5章 業務処理用ソフトウェアの活用 1節 グループウェアの活用 ・グループウェアを活用することの利点と、グループウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 2節 販売管理ソフトウェアの活用 ・販売管理ソフトウェアと販売管理ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 3節 給与計算ソフトウェアの活用 ・給与計算ソフトウェアと給与計算ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。	知識 ・ 技術		実技テスト等
				授業での活動
				振り返りシート等
		思考 判断 表現		定期考查等
				実技テスト等
				課題やレポート
		主体的に 学習に取り 組む態度		授業での活動
				定期考查等
				振り返りシート等
第2学期	観点別 評価	知識・技術 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○
	評価 規 準	・データベースソフトウェアの 実践的活用のための知識と技術 を身に付けている。 ・マクロに関する知識と技術を 身に付けている。	・データベースに関心を持ち、効 果的な活用方法や役割などを説明 できる思考を身に付けている。 ・データベースの表やデータ構造 など基本的な知識を理解し、必要 に応じた表の正規化ができる知識 や思考を身に付けている。 ・データベースを適切に操作する 技術を身に付けている。	・SQLの演習について自発的に 取り組もうとしている。 ・ソフトウェアに関する知識、 技術を身に付け、組織の一員と しての役割を果たすため、主体 的かつ協働的に取り組もうとし ている。
学年 末考 査まで	6章 情報システムの開発 1節 システム開発の基礎 ・情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即して理解する。 ・表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。 2節 アルゴリズムの基礎 ・アルゴリズムについての基礎的な技術や、プログラミングに必要な関連する知識、技術を身に付ける。 3節 情報システムの開発演習 ・情報システムの開発を通して、企業活動の改善を科学的な根拠に基づいて、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。	知識 技術		実技テスト等
				授業での活動
				振り返りシート等
		思考 判断 表現		定期考查等
				実技テスト等
				課題やレポート
		主体的に 学習に取り 組む態度		授業での活動
				定期考查等
				振り返りシート等
第3学期	観点別 評価	知識・技術 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○
	評価 規 準	・アルゴリズムの各種基礎的な 考え方を理解している。 ・表計算ソフトウェアとデータ ベースソフトウェアの連携処理 を理解し、情報システムに組み 込む技術を身に付けている。	・システム開発モデルについ て、各手法の趣旨やメリット、 デメリットを理解し、適切な手 法を選択することができる。 ・アルゴリズムを表現するた めの流れ図について、問題解決 のためにその技術を利用するこ とができる。	・企業活動が抱える課題を現状 分析し、プログラミング機能 を利用して、主体的かつ協働 的に取り組もうとしている。

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型				
教科	商業	科目	プログラミング	単位	4	必修 選択	選択	
使用教科書		プログラミング (東京法令出版)		補助教材等				
科目の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。						
観点別評価	観点	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価 規 準	プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。		システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
					観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考査 まで	1 章 情報システムとプログラミング 1 節 情報システムの重要性 ・情報システムとプログラミングの概要について理解するとともに、関連する技術・システムの活用例を理解させる。 2 節 プログラム言語の種類と特徴 ・情報システムとプログラミングの意義と課題について、企業活動の改善と関連づけて、プログラム言語の種類と特徴をさせる。 3 節 プログラミングの手順 ・情報システムの概要とプログラミングについて自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む。 2 章 アルゴリズム 1 節 アルゴリズムの表現技法 ・アルゴリズムについて理解するとともに、効率のよいアルゴリズムを思考し適切に表現する技法を身に付けさせる。				知識 技術	定期考査等		
						課題やレポート		
						授業での活動		
					思考 判断 表現	定期考査等		
						課題やレポート		
						授業での活動		
第 1 学期 期 末 考査 まで	2 章 アルゴリズム 2 節 基本的なアルゴリズム ・基本的なアルゴリズムについて、手続き型言語を用いたプログラミングの知識と技術を身に付けさせる。 ・基本的なアルゴリズムを用いて、目的に応じた適切なプログラムを作成する知識と技術を身に付けさせる。 5 章 ハードウェアとソフトウェア 1 節 データの表現 ・数値データの表現方法（10進数・2進数・16進数・基数変換）について理解する。また、コンピュータで使用される補助単位、誤差、論理演算、データ構造、ファイル形式、文字データの表現方法について理解させる。				知識・ 技術	定期考査等		
						課題やレポート		
						授業での活動		
					思考 判断 表現	定期考査等		
						課題やレポート		
						授業での活動		
第 1 学期	観点別 評価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		◎		○		○		
	評価 規 準	報システムとプログラミングの概要について理解するとともに、関連する技術・システムの活用例を理解できたか。		・問題解決のための効率のよい処理手順をフローチャートの作成を通して考えている。		・情報システムの概要とプログラミングについて自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	5章 ハードウェアとソフトウェア 2節 ハードウェアの機能と動作 ・コンピュータの五大装置の構成について理解する。また、情報システムの構成や性能、障害対策について理解させる。 3節 ソフトウェアの体系と役割 ・情報セキュリティの目的やリスク、実現するための技術について理解させる。 4節 情報セキュリティ ・情報セキュリティの目的やリスク、実現するための技術について理解させる。	知識 技術		定期考查等	課題やレポート
				授業での活動	
		思考 判断 表現		定期考查等	課題やレポート
				授業での活動	
		主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート	授業での活動
				振り返りシート等	
第2学期 期末 考查まで	2章 アルゴリズム 3節 応用的なアルゴリズム ・添字を適切に用いて、配列を利用する意義や利点を理解するとともに活用する技術を身に付ける。 ・応用的なアルゴリズムを用いて、目的に応じた適切なプログラムを作成する知識と技術を身に付ける。 3章 プログラムと情報システムの開発 1節 情報システム開発の手法と手順 ・情報システムの開発に関する手法の種類や特徴、開発する情報システムの規模や内容などに応じて適切な手法を選択することの重要性及び要件定義、外部設計、内部設計など情報システムの開発に関する手順について考察する学習活動を取り入れる。	知識 ・ 技術		定期考查等	課題やレポート
				授業での活動	
		思考 判断 表現		定期考查等	課題やレポート
				授業での活動	
		主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート	授業での活動
				振り返りシート等	
第2学期	観点別 評価	知識・技術 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・コンピュータの五大装置の構成、情報システムの構成や性能、障害対策について理解している。 ・添字を適切に用いて、配列を利用する意義や利点を理解するとともに活用する技術を身に付ける。	・手続き型言語を用いて問題解決のための効率のよいプログラムを作成し、適切に表現している。 ・情報技術におけるセキュリティ管理について興味を持ち、対策などを考察できるか。	・プログラムとして適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
学年 末 考查まで	3章 プログラムと情報システムの開発 2節 プロジェクト管理 ・人的資源、物理的資源などの確保、費用の見積り、進捗管理など、プロジェクト管理の意義と手法を理解する。 4章 情報システムの開発演習 1節 Webページ作成の基礎 ・HTML言語を用いてWebページの作成を行う。テキストエディタで基本的なタグの学習し、タグを利用してのWebページの作成技法について理解する。	知識 技術		定期考查等	課題やレポート
				授業での活動	
		思考 判断 表現		定期考查等	課題やレポート
				授業での活動	
		主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート	授業での活動
				振り返りシート等	
第3学期	観点別 評価	知識・技術 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・人的資源、物理的資源などの確保、費用の見積り、進捗管理など、プロジェクト管理の意義と手法を理解している。 ・タグを利用してのWebページの作成技法について理解している。	・Webページ制作に関する問題の発見と解決について分析、表現し、評価・改善できる。	・適切なプログラムと情報システムの開発に主体的に取り組もうとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型				
教科	商業	科目	ビジネス実務 A		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書				補助教材等	全商ビジネス計算実務検定模擬 試験問題集			
科目の目標		商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主対的、合理的にかつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。また、ビジネスの諸活動を円滑に行う能力と態度を育てる。						
観点別評価		観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		重点	○	◎	○			
		評価 規 準	社会人として望ましい心構えやビジネスマナーを身につけ、具体的なビジネスの場面において適切にコミュニケーションを取ることができ、合理的な業務を行うことができる。	ビジネスの様々な場面における適切なコミュニケーションの方法やオフィスにおける合理的な業務方法を、基礎的な知識をもとに自ら考え工夫するとともに、その成果を的確に表現できる。	ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や、業務の合理化について関心を持ち、主対的に学習に取り組むとともに、社会人として望ましい心構えや態度を身につけている。			
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
					観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考 査 ま で	【第 1 章】 企業の組織と人間関係 (ねらい) ・経営組織の構造と意思決定の関係を理解させる。（問題演習） ・社会人としての心構えと良好な人間関係を築く必要性を理解させる。 【第 2 章】 ビジネスマナー (ねらい) ・挨拶や名刺交換の方法、訪問・来客の対応などを理解させる。（ロールプレイング） ・電話対応における適切なコミュニケーションを理解し、適切に実践する。 ・席次やマナーの基本について、立場に応じた適切な行動を理解させる。				知識 技術	課題やレポート		
						授業での活動		
					思考 判断 表現	振り返りシート等		
						主体的に 学習に 取り組む 態度	課題やレポート	
					作品や課題			
					定期考査等			
第 1 学期 期 末 考 査 ま で	【第 3 章】 ビジネスコミュニケーション (ねらい) ・ビジネスコミュニケーションの重要性を理解させる。 ・ディスカッションやプレゼンテーションの効果的な方法を理解させる。 ・交渉、苦情対応など場面に応じた適切な行動を学習する。 【第 4 章】 オフィス実務 (ねらい) ・業務の適切な進行方法を理解し、それを実践する重要性を理解させる。 ・業務の効率化に必要なスケジュール管理方法、オフィス環境の整備、資料保管の方法を理解させる。 ・会議の意義や種類、基本的な流れについて理解させる。				知識 ・ 技術	課題やレポート		
						授業での活動		
					思考 判断 表現	振り返りシート等		
						主体的に 学習に 取り組む 態度	課題やレポート	
					作品や課題			
					定期考査等			
第 1 学期	観点別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
		◎	○	○				
	評価 規 準	・社会人として望ましい心構えや組織の一員として働くためのルールについて関心を持ち、社会人として望ましい心構えや態度を身につけている。	・組織の人間関係と仕事がいかに結びついているか思考し、組織の一員として働く際の心構えや組織のルールについて、様々な角度から考察し、表現できる。	・社会人として望ましい心構えを理解し、組織のルールや習慣を身につけることが組織の人間関係をきずき、仕事をする上で必要であることを理解しようとしている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	【第5章】 税の申告と納付 ■国際化とコミュニケーション■ CHAPTER 1 国際ビジネスとコミュニケーション CHAPTER 2 国際化の進展とビジネス ■ビジネスの会話■ CHAPTER 3 国内での接客 CHAPTER 4 入国 CHAPTER 5 商談と会議 (ねらい) ・国際的なビジネスの諸活動における英語によるコミュニケーションの意義や役割について理解させる。 ・ビジネスにおける外国人との対応の技法と会話に関する基礎的・基本的な知識について理解させる。			知識 技術	課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
				思考 判断 表現	課題やレポート
					作品や課題
					定期考査等
				主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題
					授業での活動
振り返りシート等					
第2学期 期末 考查まで	CHAPTER 6 帰国 ■ビジネス文書■ CHAPTER 7 電子メールの利用 CHAPTER 8 ビジネスレター CHAPTER 9 貿易取引 CHAPTER 10 ビジネス文書 (ねらい) ・電子メールの受発信に関する基礎的・基本的な知識について理解させる。 ・ビジネスレターおよび封筒の書き方関する基礎的・基本的な知識について理解させる。			知識 ・ 技術	課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
				思考 判断 表現	課題やレポート
					作品や課題
					定期考査等
				主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題
					授業での活動
振り返りシート等					
第2学期	観点別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		◎	○	○	
	評価 規 準	・ディベートを通して身につく能力や技法がビジネスの場で生かされることを理解するとともに、ディベートの基本的なルールを身につけている。	・快適なオフィスとは何かを考え、さまざまな角度から効率的な業務遂行に必要なオフィス環境を提案、表現することができる。	・ビジネスにおける国際化の進展に関心を持ち、その現状と課題について、自分から進んでまとめたり、確認したりしようとする。	
学年 末 考查まで	序章 珠算の歴史 【第1章】 計算の基礎 【第2章】 珠算 【第3章】 暗算 (ねらい) ・珠算の歴史やその利便性・有用性を理解し、珠算の学習への興味・関心を持つ。 ・ビジネス計算の基礎となる数の扱い方について理解させる。 ・ビジネスにおける数字の桁の重要性を理解し定位法の正しい計算方法を身につける。			知識 技術	課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
				思考 判断 表現	課題やレポート
					作品や課題
					定期考査等
				主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題
					授業での活動
振り返りシート等					
第3学期	観点別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		○	◎	○	
	評価 規 準	数量や金額に対する感覚が養われ、大きな数や小さな数に対する感覚が身についているか。また、補数を利用した簡単な計算ができる。	ビジネスの諸活動に必要な数の数え方、記数法等について考察できるか。また、概算による計算の方法、補数について考察できる。	乗算・除算の定位法について関心をもち、そろばんによる乗算・除算の定位法を学ぼうとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	商業科	類型				
教科	商業	科目	ビジネス実務 B		単位	2	必修 選択	選択
使用教科書				補助教材等	全商情報処理検定模擬試験問題集 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集			
科目の目標		ビジネス活動における情報を適切に処理し発信する文書構成能力の向上を目指して、論理力、表現力、語彙力、発想力などの文書を構成する力を身に付けさせる。さらにソフトウェアを効果的に活用し、主体的かつ創造的に取り組む態度を養う。						
観点別評価		観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		重点	◎	○	○			
		評価規準	ビジネス活動における情報を適切に処理し、発信する文書を構成する能力を身につけている。	論理力、表現力、語彙力、発想力などの文書を構成する力を身に付け、企業の発信文書の表現方法や発信方法を考えることができる。	ソフトウェアを効果的に活用し、主体的かつ創造的に取り組もうとしている。			
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
					観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考查まで	ビジネス文書の作成 ・ビジネス文書と表現 ・基本文書の作成 ・ワープロの操作と入力方法 ・ワープロを利用した文書の作成 ・社外文書 ・社内文書 ・応用文書の作成 情報の集計と分析 ・ビジネスと統計 ・関数を利用した表の作成 ・グラフの作成	知識 技術			知識 技術	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動		
						思考 判断 表現	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動	
							主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等
		知識 ・ 技術			知識 ・ 技術	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動		
						思考 判断 表現		実技テスト等 課題やレポート 授業での活動
							主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等
第 1 学期 期末 考查まで	コンピュータシステムと情報通信ネットワーク ・コンピュータシステムの概要 ・情報通信ネットワークのしくみと構成 ・インターネットの活用 ・情報セキュリティの確保 アルゴリズム ・アルゴリズムの表現技法 ・基本的なアルゴリズム	知識 ・ 技術			知識 ・ 技術	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動		
						思考 判断 表現		実技テスト等 課題やレポート 授業での活動
							主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等
		知識 ・ 技術			知識 ・ 技術	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動		
						思考 判断 表現		実技テスト等 課題やレポート 授業での活動
							主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等
第 1 学期	観点別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
		◎	○	○				
		評価規準	・各種文書の役割や文書の構成要素などについて理解できる。 ・情報システムとプログラミングの概要について理解できる。	・情報技術におけるセキュリティ管理について興味を持ち、対策などを考察できる。	・情報システムの概要とプログラミングについて自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	表計算ソフトウェアの活用 ・表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 ・表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ ・手続きの自動化 データベースソフトウェアの活用 ・ビジネスとデータベース ・データベースの作成と操作 ・手続きの自動化 ・データベースの構造 ・SQLの操作	知識 技術		課題やレポート	
				授業での活動	
				振り返りシート等	
		思考 判断 表現		実技テスト等	
				課題やレポート	
				授業での活動	
		主体的に 学習に取り 組む態度		実技テスト等	
				課題やレポート	
				授業での活動	
第2学期 期末 考查まで	アルゴリズム ・応用的なアルゴリズム 情報ネットワークの活用 ・情報通信ネットワークの導入と活用 ・情報資産の保護 ハードウェアとソフトウェア ・データの表現 ・ハードウェアの機能と動作 ・ソフトウェアの体系と役割	知識 ・ 技術		課題やレポート	
				授業での活動	
				振り返りシート等	
		思考 判断 表現		実技テスト等	
				課題やレポート	
				授業での活動	
		主体的に 学習に取り 組む態度		実技テスト等	
				課題やレポート	
				授業での活動	
第2学期	観点別 評価	知識・技術 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・添字を適切に用いて、配列を利用する意義や利点を理解するとともに活用する技術を身に付けている。	・データベースに関心を持ち、効果的な活用方法や役割などを説明できる。	・データベースの演習に主体的な姿勢で取り組もうとしている。 ・プログラムとして適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
学年 末 考查まで	情報システムの開発演習 ・Webページ作成の基礎 プレゼンテーション ・プレゼンテーションの技法 ・ビジネスにおけるプレゼンテーション	知識 技術		課題やレポート	
				授業での活動	
				振り返りシート等	
		思考 判断 表現		実技テスト等	
				課題やレポート	
				授業での活動	
		主体的に 学習に取り 組む態度		実技テスト等	
				課題やレポート	
				授業での活動	
第3学期	観点別 評価	知識・技術 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義を理解できる。 ・タグを利用したWebページの作成技法について理解できる。	・Webページ制作に関する問題の発見と解決について分析、表現し、評価・改善できる。	・適切なプログラムと情報システムの開発に主体的に取り組もうとしている。	

※「◎」特に重視する観点